中学生の友人グループ「間」序列による学校適応感への影響
—「仲間集団の階層性」尺度を用いた検討—

○茂苅梓沙（名古屋大学大学院）　　中谷素之（名古屋大学）

キーワード：中学生，友人関係，学校適応感

問題と目的

中学生の学校適応において，友人関係が重要であり，近年では，友人関係グループ間序列に焦点を当てた研究が増えている（e.g.，水野・加藤・川田，2015）。友人グループ間序列は，クラス内における友人グループ間の地位格差であり（鈴木，2012），クラスの階層構造自体を指す（水野・日高，2019）。しかし，この階層構造自体の影響については，十分に検討されていない。特に，友人グループ間序列は集団の指標だが，個人の指標から算出する形で検討されていることが課題である。

そこで，本研究では，友人グループ間序列を集団の指標である階層性として測定した。そして，階層性と個人変数であるグループ間地位（所属する友人グループの，クラス内相対的地位）が学校適応感や強みへの注目に及ぼす影響と，階層性と集団透過性が学校適応感や強みへの注目に及ぼす影響について検討した。

方　法

協力者　公立中学校 3 校 36 学級の生徒 986 名。

調査項目　(1)「仲間集団の階層性」尺度（石田・小島，2009）6 項目を中学生用に改変（2）グループ間地位；水野・加藤・川田（2015）等を参考に，所属する友人グループが「ある」と回答した場合，「私のいるグループはクラスで中心的なグループだ」に対して回答を求めた（3）青年用適応感尺度（大久保，2005）の，「居心地の良さの感覚」「課題・目標の存在」の 18 項目（4）個人の集団透過性尺度（黒川・吉田，2009）7 項目を中学生用に改変（5）新版中学生用学級風土尺度（伊藤・宇佐美，2017）の，「学級内の不和」「リーダー」の 12 項目（6）子ども用強み注目尺度 15 項目（阿部・岸田・石川，2019）

結果と考察

階層性，グループ間地位が学校適応感，強みへの注目に及ぼす影響

学校適応に及ぼす影響について，重回帰分析を行った（Table 1，Figure 1）。その結果，階層性が高いことやグループ間地位が低いこと自体が学校適応感を低下させる要因となる上に，階層性の高いクラスで，所属する友人グループの地位が低いことが，学校適応感をより下げる可能性を持つことが示唆された。

一方，強みへの注目に及ぼす影響について，グループ間地位による自己の強みへの注目に対する影響のみが見られた。すなわち，グループ間地位が高いと自分に強みがあることに注目するが，クラスに階層性があることと自分や他者の強みに注目することの間に関連がないことが示された。

階層性，集団透過性が学校適応感，強みへの注目に及ぼす影響

階層性と集団透過性が学校適応感に及ぼす影響についてグループ間地位別に検討したところ，高地位グループにおける「課題・目的の存在」でのみ，交互作用効果が有意傾向であった。すなわち，地位が高いだけで学校適応感が良いように感じられるが，階層性の高いクラスにおいては，他のグループと交流しやすいかということが，クラスにおいて目標が存在することや達成による充実感というレベルの適応を左右する可能性が示唆された。

一方，強みへの注目に及ぼす影響について，グループ間地位別に検討したところ，低地位グループにおける「他者の強みへの注目」でのみ，交互作用効果が有意傾向であった。すなわち，低地位グループでは，他のグループと交流する傾向が高い人はクラス内のグループ間序列の有無にかかわらず他者の強みに注目するが，他のグループと交流する傾向が低い人は，クラス内のグループ間序列がある場合に他者の強みに注目し，クラス内のグループ間序列がない場合には他者の強みに注目しないことが示された。

Table 1　階層性，グループ間地位を説明変数，学校適応感を基準変数とした重回帰分析

	学校適応感	居心地の良さの感覚	課題・目的の存在
グループ間地位	.268 **	.291 **	.209 **
階層性	-.132 **	-.152 **	-.092 *
グループ間地位×階層性	-.132 *	.078 *	.092 *
R^2	.101 **	.115 **	.067 **

** $p < .01$　* $p < .05$

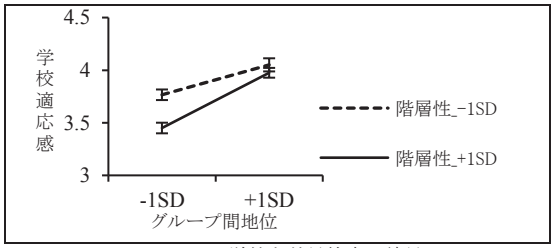

Figure 1　単純主効果検定の結果